

意識の論理的構造(行動、人格、合理性、高次思考、意図的性)

Michael Starks

抽象

半世紀の忘却の後、意識の性質は今や行動科学と哲学の中で最もホットな話題です。1930年代のルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタイン(青と茶色の本)の先駆的な作品から始まり、50年代から彼の論理的な後継者ジョン・サールによる現在まで、私はこの研究を進めるためのヒューリスティックとして次の表を作成しました。行は様々な側面または研究方法を示し、列は、自己有理性の論理的構造(LSR-Searle)、行動(LSSp)、人格(LSSP)、現実(LSOR)、理論哲学的哲学的用語、意識DPC心理学(意識の記述)の2つのシステム(二重プロセス)を含む不随意プロセスと自発的行動を示しています。、思考の記述心理学 (DPT) - またはより良い、思考の記述心理学の言語 (LDPT)、ここで紹介された用語と私の他の非常に最近の著作。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サールの第2回(2019)における哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多くにご興味がある人は、運命の惑星における「話す猿--哲学、心理学、科学、宗教、政治—記事とレビュー2006-2019 第3回(2019)」と21世紀4日(2019年)の自殺ユートピア妄想st Century 4th ed (2019)などを見ることができます。

約100万年前、霊長類は喉の筋肉を使って複雑な一連のノイズ(つまり、スピーチ)を作る能力を進化させました。私たちは徐々に、記憶、態度、潜在的な出来事(過去と未来、しばしば反事実、条件付きまたは架空の好み、傾向または性質)を記述するために、正確な時間がなく、能力ではなく精神状態ではないシステム2-スロー意識的な真または偽の命題の態度思考の二次言語ゲーム(SLG)と共に、空間と時間の変位を包含するさらなる能力を開発しました。好みは直感、傾向、自動腫瘍学的ルール、行動、能力、認知モジュール、性格特性、テンプレート、推論エンジン、傾斜、感情、提案態度、鑑定、能力、仮説です。感情はタイプ2の環境設定(W RPP2 p148)です。「私は信じています」「彼は愛している」「彼らは考える」は、通常、時空に置かれている可能性のある公共の行為の記述です。私自身に関する私の一人称声明は真のみの(嘘を除く)、他人に関する第三者の声明は真実または虚偽です(ジョンストン' ウィトゲンシュタイン:内面を再考する』の私のレビューを参照)。

知覚、反射的行動、記憶に反する意図的な状態のクラスとしての「好み」は、1930年代にウィトゲンシュタイン(W)によって最初に明確に記述され、「傾向」または「性質」と呼ばれていました。彼らはラッセル以来一般的に「命題的態度」と呼ばれていますが、これは誤解を招くフレーズであり、意図し、知り、記憶するなど、しばしば提案や態度ではありません。それらは、本質的な、観察者に依存しない精神表現である(システム1の表示またはシステム2への表現とは対照的に - Searle-C+L p53)。彼らは時間や空間に置き換えられる潜在的な行為であり、進化的により原始的なシステム1の知覚記憶と反射的な行動の精神状態は常に今ここにあります。これは、システム2とシステム3、システム1の後の脊椎動物心理学の第2および第3の主要な進歩、出来事を表現し、それらを別の場所または時間に起こっていると考える能力を特徴づける1つの方法です(サールの第3の反イマジネーションの教員は認知と意志を補充します)。S1は潜在的または無意識の精神状態である(サール-フィル問題1:45-66(1991))。

知覚、記憶および反射的な(自動)行動はS1またはプライマリLG(例えば、私は犬を見る)と記述することができます、通常の場合、テストは不可能なので、真のみのことができます。処分は二次LG(SLGの-例えば、私は犬を見ると信じています)と表現することができます、私自身の場合でさえも行動しなければなりません(つまり、私が行動するまで私が何を信じ、考え、感じるかを知るにはどうすればよいですか)。性質はまた、話されたり書かれたりして他の方法で行動を起こしたときの行動となり、これらのアイデアはすべてヴィトゲンシュタイン(1930年代半ば)によるものであり、行動主義ではありません(ヒンティッカ&ヒンティッカ1981年、サール、ハット、リード、ハッカーなど)。ヴィトゲンシュタインは、進化心理学、文脈主義、エナビズム、そして2つのシステムフレームワークの創始者とみなされ、彼の作品は、私たちの公理的システム1心理学の機能とシステム2との相互作用に関するユニークな調査を行っています。それをよく理解している人はほとんどいませんが(そして間違いなく今まで完全には誰もいません)、とりわけ彼の古典的な著書「合理性」(2001年)で以下のテーブルのシンプルなバージョンを作ったジョン・サールによってさらに開発されました。これは、1911年の彼の最初のコメントから開発され、彼の最後の作品「確実性(OC)」(1950-51年に書かれた)で美しくレイアウトされた進化心理学の公理的構造のWの調査に拡大します。OCは、行動や認識論、オントロジー(おそらく同じ)、認知言語学、または高次思考(HOT)の論理的構造の基礎石であり、私の見解では

哲学(記述心理学)の中で最も重要な研究であり、したがって行動の研究において最も重要な研究です。私の記事ウィトゲンシュタインとサル(2016)で明らかにされた哲学、心理学、心と言語の論理的構造とダニエレ・モヤル・シャーロックの最近の作品を参照してください。

知覚、記憶、反射的な行動と感情は、心が自動的に世界に適合するPLGの「皮質下の不随意精神状態」である原始的な部分的に、(Causally自己参照--Searleである)、制御が不可能な合理性の疑いのない、真の唯一の公理的根拠である。感情は欲望や意図と行動の間の橋渡しをするために進化しました。好み、欲望、意図は、心が世界に合わせようとするSLGの「SLG」に記載されている、ゆっくりとした思考意識の自発的能力の記述です。

行動主義と私たちのデフォルトの記述心理学(哲学)の他のすべての混乱は、S1が機能しているのを見ることができず、すべての行動をSLG(Searleの現象学的錯覚またはTPI)と表現することができないために生じます。Wはこれを理解し、彼の作品を通して行動する言語(心)の何百もの例で比類のない明確さでそれを説明しました。理由はワーキングメモリにアクセスするので、私たちは意識的に明らかに見えるが、典型的には間違っただ理由を使って行動を説明します(現在の研究の2人の自分自身)。信念やその他の性質は、世界の事実(心とフィットの世界の方向)に一致させようとする思考であり、ヴォリティオンは行動する意図(事前意図- PI、またはアクションIAA-サルスの意図)に加えて、世界を思考に合わせようとする行為です。

合理性の論理的構造(高次思考の記述心理学)に関する合理的なスタートを切ったので、私がここ数年で構築したこの作品から生じる意図的性の表を見ることができます。これは、今度はウィトゲンシュタインに多くを負っているサルから明らかに簡単なものに基づいています。私はまた、過去9行に証明されている思考プロセスの心理学で現在の研究者によって使用されている変更されたフォームテーブルに組み込まれています。ピーター・ハッカーの人間性に関する最近の3巻のものと比較することは興味深いはずですが。この表は、S1とS2の間の多くの(おそらくすべて)経路が双方向である多数の(おそらくすべて)経路を持つ、最終的な分析や完全な分析ではなく、私が見た他のどのフレームワークよりも完全で有用な動作を記述するためのヒューリスティックとして提供します。また、S1とS2の間の非常に区別、認知と意欲、知覚と記憶、感情、知ること、信じる、期待するなど、任意です-つまり、Wが示したように、すべての単語は文脈的に敏感であり、ほとんどがいくつかの全く異なる用途(意味またはCOS)を持っています。

Wの仕事やサルスの用語に合って、私はS2の表現を公的満足条件(COS)として分類し、この意味でS1のような認識はCOSを持っていません。他の著作ではSは彼らがそうすると言いますが、私の他のレビューで述べたように、私はCOS1(プライベートプレゼンテーション)とCOS2(公共の表現)を参照することが不可欠だと思います。この批判的な区別を繰り返すために、S2の公的満足条件は、Searleと他の人たちによってしばしばCOS、表現、真実のメーカーまたは意味(または自分でCOS2)と呼ばれ、S1の自動結果は他の人によるプレゼンテーション(またはCOS1)として設計されています。

同様に、私は彼の「フィットの方向」を「原因は起源」に、彼の「因果関係の方向」を「変化を引き起こす」に変更しました。システム1は不本意、反射的または自動化された「ルール」R1であり、思考(認知)はギャップがなく、自発的または審議的な「ルール」R2であり、意欲(意志)は3つのギャップを持っています(Searleを参照)。

多くの複雑なチャートは科学者によって公開されていますが、私は行動について考えるとき(脳機能について考えるのではなく)最小限の有用性を見つけます。説明の各レベルは、特定のコンテキストで有用であるかもしれませんが、私は粗いまたは細かいことが有用性を制限していることがわかります。

意図的性は、人格として、または社会的現実の構築(サルスの有名な本のタイトル)として、また他の多くの視点から見ることができます。

1930年代のルートヴィヒ・ウィトゲンシュタイン(青と茶色の本)の先駆的な作品から始まり、50年代から後継者のサル、モヤル・シャーロック、リード、ベイカー、ハッカー、スターン、ホーウィッチ、ウィンチ、フィンケルシュタインなどによって現在まで、私はこの研究を進めるためのヒューリスティックとして次のテーブルを作成しました。行は様々な側面または研究方法を示し、列は、合理性(LSR)の論理構造(LSC)の2つのシステム(二重プロセス)を含む不随意プロセスと自発的行動を示しており、これは合理性(LSR)の論理構造(LSB)、人格(LSB)、マインド(LSM)、言語(LSL)、現実(LSOR)、現実(LSOR)の古典的な哲学的な用語意識の記述心理学(DPC)、思考の記述心理学(DPT)、より良い、思考の記述心理学(LDPT)の言語、ここで紹介された用語、そして私の他の非常に最近の著作。

意思決定研究から

	好きになる傾向がある*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI**	IA***	アクション / 語
サブリミナル効果	ない	はい/ ない	はい	はい	ない	ない	ない	はい/ ない
連想 (A) ルールベース (RB)	RB	A/RB	A	A	A/RB	RB	RB	RB
状況依存 (CD) 抽象化 (A)	A	CD/A	CD	CD	CD/A	A	CD/A	CD/A
シリアル (S) 平行 (P)	S	S/P	P	P	S/P	S	S	S
ヒューリスティック (H) 分析 (A)	A	H/A	H	H	H/A	A	A	A
アクティブが必要 記憶	はい	ない	ない	ない	ない	はい	はい	はい
一般的なインテリジェンス 依存	はい	ない	ない	ない	はい/ ない	はい	はい	はい
認知的ローディング 抑制	はい	はい/ ない	ない	ない	はい	はい	はい	はい
覚醒は 促進 (F) または抑制 (I)	I	F/I	F	F	I	I	I	I

S2の満足度の公共条件は、多くの場合、Searleと他の人によってCOS、表現、真実作成者または意味(または自分でCOS2)と呼ばれ、S1の自動結果は他の人(または自分でCOS1)のプレゼンテーションとして指定されます。

*設定、機能、設定、表現、可能なアクションなど

** Searleの以前の意図

*** Searleの意図の実行

**** Searleのフィット方向

*****サールの因果関係

***** (精神状態がインスタンス化されます-それ自体を引き起こしたり実行したりします)。サールはこれを因果的に自己参照と呼んでいた。

***** Tversky / Kahneman / Frederick / Evans / Stanovichによって定義された認知システム。

*****異なる場所、異なる時間 (TT) 現在の時刻と場所 (HN)

私は他の著作でこのテーブルの詳細な説明をします。

私は、サールの「満足の条件に満足の条件を押し付ける」を「筋肉を動かすことによって精神状態を世界に関連付ける」に変更することで、行動をより明確に記述できることを示唆しています。話し、書き込み、そして彼の「フィットの世界の方向への心」と「世界からフィットする方向を気にする」による「原因は心の中に由来する」と「原因は世界に由来する」S1は、S2がコンテンツを持ち、下向きに因果関係(世界への心)を持っている間、上向きの因果関係(世界から生じる)と満足のいかない(表現や情報を欠いている)だけです。 describe behavior more clearly私はこの表の用語を採用しました。

特定の文脈で言語の可能な用途(意味、真実作成者、満足の条件)を記述した後、私たちはその関心を使い果たし、説明(哲学)の試みは真実から遠ざかるというヴィトゲンシュタインの発見を常に念頭に置くべきです。このテーブルは、非常に単純化されたコンテキストフリーのヒューリスティックであり、単語の各使用は、そのコンテキストで調べる必要があることに注意することが重要です。文脈変動の最良の検討は、ピーターハッカーの人間の性質上の最近の3巻で、この1つと比較されるべき多数のテーブルとチャートを提供しています。